問 15、問 16 に関してはがんと診断された時、40 歳未満だった方のみお答えください。

がんの治療の中には、**一部**、「こどもができるかどうか」に影響を与えるものがあります。以下はそれらの説明に関する質問です。他の質問と同様**男性の方も、女性の方も**お答え下さい。

（40 歳という年齢はアンケート上の区切りを示したもので、医学的な意味はありません。）

問15. 最初のがんの治療が開始される前に、その治療による不妊への影響について、医師から説明を受けましたか？（○は１つ）

１．不妊への影響がある、という説明を受けた	➔ **問 16 へ**
２．不妊への影響はない、という説明を受けた	➔ **問 17 へ**
３．説明はなかった	➔ **問 17 へ**
９．わからない	➔ **問 17 へ**

問16.【問 15 で 1（影響がある、という説明を受けた）と答えた方のみお答えください】
がん治療により不妊になる可能性があることについて、それを予防する、あるいはこどもをつくる機能を温存するための具体的方法を医師から説明されましたか？（○は１つ）

１．予防・温存の具体的方法を説明された
２．予防・温存の具体的方法はないと言われた
３．予防・温存の具体的方法については説明を受けなかった
９．わからない

ここから全ての方に伺います。

<がんの診断からこれまでの経過、全般について伺います>

問17. 最初の治療を受けた病院では、診断・治療に関わる医師、看護師、他の医療スタッフは、十分に連携していたと思いますか？（○は１つ）

１．よく連携していた	２．ある程度連携していた	３．どちらともいえない
４．あまり連携していなかった	５．まったく連携していなかった	９．わからない

問18. これまで治療を受ける中で、医療スタッフから治療スケジュールの見通しに関する情報は得られましたか？（○は１つ）

１．十分得られた	２．ある程度得られた	３．どちらともいえない
４．あまり得られなかった	５．まったく得られなかった	９．治療無し/わからない

次へ

問19. これまで治療を受ける中で、医療スタッフから退院後の生活の見通しに関する情報は得られましたか？（○は１つ）

1．十分得られた	2．ある程度得られた	3．どちらともいえない
4．あまり得られなかった	5．まったく得られなかった	9．入院・退院無し/わからない

問20. 治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したことがありますか？（○は１つ）

1．ある	2．ない

問21.【問 20 で 1（ある）と答えた方のみお答えください】
治療負担の問題が無ければ受けたであろう治療は以下のどれでしょうか？（○は１つ）

1．公的医療保険外の治療（先進医療を含む）	2．公的医療保険内の治療
9．わからない	

問22. がんの最初の治療（手術、化学療法、放射線療法など、経過観察も含む）のための通院にかかった交通費は、1 回、往復でおおよそどのくらいの費用ですか？最初の治療を複数の病院で受けられた場合、最も遠方の病院に通院された際の往復の交通費をお答えください。自動車やバイクを利用された場合は駐車代を含めた額をお答えください。（○は１つ）

1．　0 円　（徒歩や自転車などのため、交通費はかかっていない）	
2．　1 円以上～2000 円未満	3．　2000 円以上～5000 円未満
4．　5000 円以上～1 万円未満	5．　1 万円以上～2 万円未満
6．　2 万円以上	9．　わからない

問23. がんと診断されたとき、病気のことや療養生活に関する様々な疑問について相談できる場がありましたか？（○は１つ）

1．あった	2．なかった	9．相談を必要としなかった

<がんの診断・治療とお仕事の関係について伺います>

何度かがんにかかった方は、最初にがんと診断されたときのことをお答え下さい。

問24. がんと診断された時、収入のある仕事をしていましたか。（○は１つ）

1．はい、収入のある仕事をしていた	➔ **問 25 へ**
2．いいえ、収入のある仕事をしていなかった	➔ **問 29 へ**

次へ

【問 24 で 1(がんと診断された時、収入のある仕事をしていた) と答えた方のみお答えください】

問25. そのとき働いていた職場や仕事上の関係者にがんと診断されたことを話しましたか。（○は１つ）

1．関係者に広く話した
2．一部の関係者のみに限定して話した
3．話さなかった

問26. がんの治療中に、治療と仕事を両方続けられるような支援または配慮を職場や仕事上の関係者から受けたと思いますか？（○は１つ）

1．そう思う	2．ややそう思う	3．どちらともいえない
4．あまりそう思わない	5．そう思わない	9．わからない

問27. がんで初めて治療・療養した時、一定期間仕事を休みましたか？また、その後復職・復帰しましたか？（○は１つ）

1．休まなかった
2．現在まで継続して休んでいる
3．一定期間休み、その後、一度は復職・復帰した
4．一定期間休み、その後、一度も復職・復帰せずに退職・廃業した
5．一定期間の休みをとることなく、退職・廃業した
6．その他（　　）

問28. これまでのがん治療・療養を通して、退職・廃業の有無と現在の仕事の状況について、あてはまるものをお答え下さい。（○は１つ）

1．退職・廃業したことはない（休職・休業中で退職・廃業していない場合を含む）
2．退職・廃業したことがあるが、現在は再就職・復業・開業している
3．退職・廃業した。希望はあるが、現在は再就職・復業・開業していない
4．退職・廃業した。特に希望はないため、現在は再就職・復業・開業していない
5．その他（　　）

ここから全ての方に伺います。

次へ

問29. 診断されたがんの種類（原発巣）をお答え下さい。（当てはまるものすべてに○。２種類以上の場合は直近のものに◎をつけてください。（再発も含む））

１．乳がん	２．大腸(結腸・直腸)がん	３．胃がん
４．肺がん	５．肝臓がん	６．前立腺がん
７．子宮がん（頸がん・体がん）	８．卵巣がん	９．食道がん
10．すい臓がん	11．口腔・咽頭・喉頭がん	12．甲状腺がん
13．悪性リンパ腫・白血病	14．骨・軟部腫瘍	15．脳腫瘍
16．膀胱がん	17．精巣腫瘍	18．原発不明がん
19．その他（　　）		

問30. 診断された時のがんの進行度（ステージ）をお答えください。複数回がんにかかったことがある場合は、直近に診断されたものについてお答え下さい。（○は１つ）

１．０期	２．Ⅰ期	３．Ⅱ期	４．Ⅲ期	５．Ⅳ期	９．わからない

問31. 現在のがんの治療（緩和ケアも含む）の状況についてお答えください。（○は１つ）

１．入院治療中である
２．通院治療中である（訪問診療を含む）
３．定期的に通院しているが、治療はしていない（治療は終了した/経過観察中である）
４．定期的な通院はしていない
５．その他（　　）

問 32～34 は、ご記入いただいている方がアンケートの宛名の方ではなくてもご記入いただいている方ご自身についてお答えください。

問32. 一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと思いますか？（○は１つ）

１．そう思う	２．ややそう思う	３．どちらともいえない
４．あまりそう思わない	５．そう思わない	９．わからない

問33.「臨床試験」とは何か知っていますか？（○は１つ）

１．よく知っている	２．ある程度知っている
３．聞いたことはあるが、あまり知らない	４．聞いたことがない

次へ

問34. がん相談支援センターについて以下の質問にお答え下さい。

がん相談支援センターは、誰でも無料でがんに関する相談・情報提供をうけられる窓口で、全国のがん診療連携拠点病院に必ず設置されています。病院により、がん診療相談室と呼ばれたり、地域連携室の中に設置されていることがあります。

問34a. がん相談支援センターを知っていますか？（○は１つ）

1．利用したことがある	2．利用したことはないが、知っている
3．知らない	9．わからない

問34b. 【問 34a で 1（利用したことがある）と答えた方のみお答えください】
がん相談支援センターを利用して役に立ったと思いましたか？（○は１つ）

1．とても役に立った	2．やや役に立った	3．どちらともいえない
4．あまり役に立たなかった	5．まったく役に立たなかった	9．わからない

アンケートの宛名の患者さん以外の代理の方がご記入の場合
ここで終了です。ご協力ありがとうございました。
患者さん本人がご記入の場合は続けてください。

問35. あなたは、自分が思うような日常生活を送るのに必要な情報を得られていると思いますか？（○は１つ）

1．そう思う	2．ややそう思う	3．どちらともいえない
4．あまりそう思わない	5．そう思わない	9．わからない

問36. あなたが医療機関で診断や治療を受ける中で、患者として尊重されたと思いますか？（○は１つ）

1．そう思う	2．ややそう思う	3．どちらともいえない
4．あまりそう思わない	5．そう思わない	9．わからない

問37. あなたはがんと診断されてから、家族から不必要に気を使われていると感じますか？（○は１つ）

1．よく感じる	2．ときどき感じる	3．どちらともいえない
4．あまり感じたことはない	5．まったく感じたことはない	9．該当しない/わからない

次へ

問38. あなたはがんと診断されてから、家族以外の周囲の人（友人、近所の人、職場関係者など）から不必要に気を使われていると感じますか？　（○は１つ）

１．よく感じる	２．ときどき感じる	３．どちらともいえない
４．あまり感じたことはない	５．まったく感じたことはない	９．該当しない/わからない

問39. あなたは、周囲（家族、友人、近所の人、職場関係者など）の人からがんに対する偏見を感じますか？（○は１つ）

１．よく感じる	２．ときどき感じる	３．どちらともいえない
４．あまり感じたことはない	５．まったく感じたことはない	９．該当しない/わからない

問40. あなたは現在、がんになったことで、ご家族に負担をかけていると感じますか？（○は１つ）

１．よく感じる	２．ときどき感じる	３．どちらともいえない
４．あまり感じたことはない	５．まったく感じたことはない	９．該当しない/わからない

問41. 一般的にみて、がん患者の家族の悩みや負担をやわらげてくれる支援・サービス・場所があると思いますか？　（○は１つ）

１．十分あると思う	２．十分ではないが、ある程度あると思う
３．どちらともいえない	４．やや不足していると思う
５．非常に不足していると思う	９．該当しない/わからない

問42. あなたはこれまで受けた治療に納得していますか？（○は１つ）

１．納得している	２．やや納得している	３．どちらともいえない
４．あまり納得していない	５．納得していない	９．わからない

問43.　あなたはこれまで受けた支援（医療機関、行政、職場、家族、友人など）に納得していますか？（○は１つ）

１．納得している	２．やや納得している	３．どちらともいえない
４．あまり納得していない	５．納得していない	９．わからない

問44. 現在の心身の状態についてお答えください。

問44a. からだの苦痛がある。（○は１つ）

１．そう思う	２．ややそう思う	３．どちらともいえない

４．あまりそう思わない　　５．そう思わない

問44b. 痛みがある。（○は１つ）

次へ

１．そう思う	２．ややそう思う	３．どちらともいえない
４．あまりそう思わない	５．そう思わない	

問44c. 気持ちがつらい。（○は１つ）

１．そう思う	２．ややそう思う	３．どちらともいえない
４．あまりそう思わない	５．そう思わない	

問45. 現在自分らしい日常生活を送れていると感じていますか？（○は１つ）

１．そう思う	２．ややそう思う	３．どちらともいえない
４．あまりそう思わない	５．そう思わない	９．わからない

コメント欄　＜ 何かご意見・ご感想がございましたらご記入ください。＞

ご協力ありがとうございました。同封の返送用封筒で
平成 27 年 1 月 31 日（土）までにポストに投函してください。

終了です

がんと診断されたことがない方へ伺います。
問 46～64 にお答えください。

＜現在通院中の病気について、診療・治療を受ける上でのお考えについてお答えください＞

問46. あなたが通院中の病気であてはまるものをお答えください。（複数選択可）

１．高血圧	２．糖尿病	３．脂質異常（高コレステロールなど）
４．胃、腸の病気	５．甲状腺の病気	６．喘息や呼吸器の病気
７．心臓の病気	８．腎臓、前立腺の病気	９．肝臓、胆のうの病気
10．脳卒中・脳梗塞	11．精神・神経の病気	12．貧血など血液の病気
13．骨・関節の病気	14．その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿	

問47. あなたが受診している病院や診療所の医師、看護師やその他の医療スタッフは、その病気についてあなたが欲しいと思った情報を提供していますか？（○は１つ）

１．十分提供している	２．ある程度提供している	３．どちらともいえない
４．あまり提供していない	５．まったく提供していない	９．情報を欲しいと思わない

問48. あなたは普段欲しいと思った医療情報を得られていますか？情報源は問いません（書籍・インターネットを含む）（○は１つ）

１．十分得られている	２．ある程度得られている	３．どちらともいえない
４．あまり得られていない	５．まったく得られていない	９．情報を欲しいと思わない

問49. あなたが治療を受けている病院・診療所では、診断・治療に関わる医師、看護師、他の医療スタッフは、皆、あなたから見て十分に連携していると思いますか？（○は１つ）

１．よく連携している	２．ある程度連携している	３．どちらともいえない
４．あまり連携していない	５．まったく連携していない	９．わからない

問50. あなたは、病気や健康に関する様々な疑問について相談できる場がありますか？（○は１つ）

１．ある	２．ない	９．相談を必要としていない

次へ

問51. あなたがこれまで治療を受ける中で、医療スタッフから治療スケジュールの見通しに関する情報は得られましたか？（○は１つ）

１．十分得られた	２．ある程度得られた	３．どちらともいえない
４．あまり得られなかった	５．まったく得られなかった	９．わからない

問52. あなたは、治療費用の負担が原因で治療を変更・断念したことがありますか？（○は１つ）

１．ある	２．ない

問53.【問 52 で 1（ある）と答えた方のみお答えください】
治療負担の問題が無ければ受けたであろう治療は以下のどれでしょうか？（○は１つ）

１．公的医療保険外の治療（先進医療を含む）	２．公的医療保険内の治療
９．わからない	

問54. 通院にかかる交通費は、1 回・往復でおおよそどのくらいの費用ですか？複数の医療機関を受診されている方は、最も長期間受診されている医療機関への交通費について、また自動車やバイクを利用された場合は駐車代を含めた額をお答えください。（○は１つ）

１．	０円　（徒歩や自転車などのため、交通費はかかっていない）		
２．	１円以上～2000 円未満	３．	2000 円以上～5000 円未満
４．	5000 円以上～1 万円未満	５．	１万円以上～2 万円未満
６．	２万円以上	９．	わからない

問55. これまで病気の治療のために、仕事を長期に（連続して３ヶ月以上）休んだことはありますか？（原因の病気は現在治療中のものでなくても結構です）（○は１つ）

１．ある	２．ない

問56. 何らかの病気の治療で仕事を長期に（連続して３ヶ月以上）休まなければならないとしたら、あなたの職場や仕事上の関係者は、仕事と治療を両方続けられるような支援または配慮をしてくれると思いますか？（○は１つ）

１．そう思う	２．ややそう思う	３．どちらともいえない
４．あまりそう思わない	５．そう思わない	９．わからない

次へ

問57. あなたが医療機関で診断や治療を受ける中で、患者として尊重されていると思いますか？（○は１つ）

１．そう思う	２．ややそう思う	３．どちらともいえない
４．あまりそう思わない	５．そう思わない	９．わからない

問58. あなたは病気が原因で家族から不必要に気を使われていると感じますか？（○は１つ）

１．よく感じる	２．ときどき感じる	３．どちらともいえない
４．あまり感じたことはない	５．まったく感じたことはない	９．該当しない/わからない

問59. あなたは、病気が原因で家族以外の周囲の人（友人、近所の人、職場関係者など）から不必要に気を使われることがあると感じますか？（○は１つ）

１．よく感じる	２．ときどき感じる	３．どちらともいえない
４．あまり感じたことはない	５．まったく感じたことはない	９．該当しない/わからない

問60. あなたは、周囲の人（家族、友人、近所の人、職場関係者）から病気による偏見を感じますか？（○は１つ）

１．よく感じる	２．ときどき感じる	３．どちらともいえない
４．あまり感じたことはない	５．まったく感じたことはない	９．該当しない/わからない

問61. あなたは病気になったことで、ご家族に負担をかけていると感じますか？（○は１つ）

１．よく感じる	２．ときどき感じる	３．どちらともいえない
４．あまり感じたことはない	５．まったく感じたことはない	９．該当しない/わからない

問62. 一般の人が受けられる医療は数年前と比べて進歩したと思いますか？（○は１つ）

１．そう思う	２．ややそう思う	３．どちらともいえない
４．あまりそう思わない	５．そう思わない	９．わからない

問63. あなたはこれまで受けた治療に納得していますか？（○は１つ）

１．納得している	２．やや納得している	３．どちらともいえない
４．あまり納得していない	５．まったく納得していない	９．わからない

次へ

問64. 現在自分らしい日常生活を送れていると感じていますか？（○は１つ）

１．そう思う	２．ややそう思う	３．どちらともいえない
４．あまりそう思わない	５．そう思わない	９．わからない

コメント欄 ＜ 何かご意見・ご感想がございましたらご記入ください。＞

ご協力ありがとうございました。同封の返送用封筒で
平成 27 年 1 月 31 日（土）までにポストに投函してください。

終了です

参加施設一覧

	都道府県	参加施設名
1	北海道	独立行政法人　国立病院機構　北海道がんセンター
2	北海道	砂川市立病院
3	北海道	北海道大学病院
4	青森県	青森県立中央病院
5	青森県	弘前大学医学部附属病院
6	青森県	十和田市立中央病院
7	岩手県	岩手医科大学附属病院
8	岩手県	岩手県立宮古病院
9	岩手県	岩手県立大船渡病院
10	宮城県	東北大学病院
11	宮城県	宮城県立がんセンター
12	宮城県	大崎市民病院
13	宮城県	石巻赤十字病院
14	秋田県	秋田大学医学部附属病院
15	秋田県	秋田赤十字病院
16	山形県	山形県立中央病院
17	山形県	国立大学法人山形大学医学部附属病院
18	山形県	置賜広域病院組合　公立置賜総合病院
19	福島県	福島県立医科大学附属病院
20	福島県	太田綜合病院附属太田西ノ内病院
21	福島県	労働者健康福祉機構　福島労災病院
22	茨城県	茨城県立中央病院
23	茨城県	筑波メディカルセンター病院・茨城県地域がんセンター
24	茨城県	筑波大学附属病院
25	栃木県	栃木県立がんセンター
26	栃木県	済生会宇都宮病院
27	栃木県	自治医科大学附属病院
28	群馬県	国立大学法人群馬大学医学部附属病院
29	群馬県	群馬県立がんセンター

30	群馬県	前橋赤十字病院
31	埼玉県	埼玉県立がんセンター
32	埼玉県	川口市立医療センター
33	埼玉県	さいたま赤十字病院
34	千葉県	千葉県がんセンター
	都道府県	参加施設名
35	千葉県	独立行政法人国立がん研究センター東病院
36	千葉県	国保旭中央病院
37	千葉県	医療法人鉄蕉会　亀田総合病院
38	東京都	都立駒込病院
39	東京都	がん研有明病院
40	東京都	独立行政法人国立がん研究センター中央病院
41	東京都	都立多摩総合医療センター
42	東京都	東京女子医科大学病院
43	神奈川県	神奈川県立がんセンター
44	神奈川県	相模原協同病院
45	神奈川県	昭和大学横浜市北部病院
46	新潟県	新潟県立がんセンター新潟病院
47	新潟県	独立行政法人労働者健康福祉機構新潟労災病院
48	富山県	富山大学附属病院
59	富山県	富山県立中央病院
50	富山県	市立砺波総合病院
51	石川県	金沢大学附属病院
52	石川県	石川県立中央病院
53	石川県	金沢医療センター
54	福井県	福井大学医学部附属病院
55	福井県	福井県立病院
56	福井県	福井県済生会病院
57	山梨県	山梨県立中央病院
58	山梨県	国民健康保険　富士吉田市立病院
59	山梨県	山梨大学医学部附属病院
60	長野県	諏訪赤十字病院
61	長野県	伊那中央病院

62	長野県	信州大学医学部附属病院
63	岐阜県	岐阜大学医学部附属病院
64	岐阜県	岐阜市民病院
65	岐阜県	岐阜県立多治見病院
66	静岡県	聖隷福祉事業団　総合病院　聖隷浜松病院
67	静岡県	浜松医科大学医学部附属病院
68	愛知県	愛知県がんセンター中央病院
69	愛知県	豊橋市民病院
70	愛知県	名古屋市立大学病院
71	三重県	三重大学医学部付属病院
72	三重県	独立行政法人国立病院機構　三重中央医療センター
73	三重県	三重県立総合医療センター
74	滋賀県	滋賀県立成人病センター
75	滋賀県	滋賀医科大学医学部附属病院
76	滋賀県	公立甲賀病院
77	京都府	市立福知山市民病院
78	京都府	京都第二赤十字病院
79	大阪府	大阪府立成人病センター
80	大阪府	市立豊中病院
81	大阪府	市立岸和田市民病院
82	兵庫県	兵庫県立がんセンター
83	兵庫県	西脇市立西脇病院
84	兵庫県	神戸大学医学部附属病院
85	奈良県	市立奈良病院
86	奈良県	近畿大学医学部奈良病院
87	和歌山県	和歌山県立医科大学附属病院
88	和歌山県	国立病院機構　南和歌山医療センター
89	和歌山県	日本赤十字社和歌山医療センター
90	鳥取県	鳥取大学医学部附属病院
91	鳥取県	鳥取県立中央病院
92	鳥取県	鳥取市立病院
93	鳥取県	国立病院機構　米子医療センター
94	鳥取県	鳥取県立厚生病院

95	島根県	島根大学医学部附属病院
96	島根県	島根県立中央病院
97	島根県	松江市立病院
98	岡山県	岡山大学病院
99	岡山県	岡山済生会総合病院
100	岡山県	倉敷中央病院
101	広島県	広島赤十字・原爆病院
102	広島県	広島市立安佐市民病院
103	山口県	地方独立行政法人　下関市立市民病院
104	山口県	山口県立総合医療センター
105	徳島県	徳島市民病院
106	香川県	香川大学医学部附属病院
107	香川県	独立行政法人労働者健康福祉機構香川労災病院
108	香川県	香川県立中央病院
109	愛媛県	四国がんセンター
110	愛媛県	松山赤十字病院
111	高知県	国立大学法人高知大学医学部附属病院
112	高知県	高知赤十字病院
113	高知県	高知医療センター
114	福岡県	国立病院機構九州がんセンター
115	福岡県	福岡東医療センター
116	福岡県	独立行政法人国立病院機構九州医療センター
117	佐賀県	佐賀大学医学部附属病院
118	佐賀県	唐津赤十字病院
119	佐賀県	独立行政法人国立病院機構　嬉野医療センター
120	長崎県	長崎大学病院
121	長崎県	長崎みなとメディカルセンター市民病院
122	長崎県	日本赤十字社長崎原爆病院
123	熊本県	済生会熊本病院
124	熊本県	熊本市立熊本市民病院
125	大分県	中津市立中津市民病院
126	大分県	大分市医師会立　アルメイダ病院

127	宮崎県	宮崎大学医学部附属病院
128	宮崎県	宮崎県立宮崎病院
129	宮崎県	国立病院機構　都城病院
130	鹿児島県	独立行政法人国立病院機構南九州病院
131	鹿児島県	独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター
132	沖縄県	国立大学法人琉球大学医学部附属病院
133	沖縄県	沖縄県立中部病院
134	沖縄県	那覇市立病院

第2期がん対策推進基本計画進捗管理指標一覧

2015年4月20日作成

全＝全体目標、A＝医療分野指標、B＝研究技術開発分野指標、C＝社会分野指標、緩＝緩ケア和分野指標、予＝予防分野指標、早＝早期発見分野指標
（補正値）とは、患者体験調査においてサンプルの確率を補正した値を指す。

データ源の測定年

全体目標

1. がんによる死亡者の減少

がんの年齢調整死亡率（75歳未満）の20%減少

全0

指標名：がんの年齢調整死亡率
データ源：人口動態統計
指標：対象：　算出法：がんの年齢調整死亡率（75歳未満）

2005年	2013年
92.4 /人口10万人	80.1 /人口10万人

留意点：がん情報サービスに掲載されている全がんの75歳未満年齢調整死亡率　http://ganjoho.jp/professional/statistics/statistics.html#pref_mortality
2005年（基準年）は人口10万人対92.4。

2. 全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上

がんと診断された時からの緩和ケアの実施はもとより、がん医療や支援の更なる充実等により、「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」を実現することを目標とする。

要素1）医療の進歩

全1

指標名：医療が進歩していることを実感できること
データ源：患者体験調査の問32
指標：対象：がん患者　算出法：「問32.一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと思いますか？」という問いに対し、1.そう思う、または2.ややそう思うと回答した患者の割合

2015年
80% （補正値）

留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答538を除外。「1.そう思う」(3707)、「2. ややそう思う」(1158)と回答。

要素2）適切な医療の提供

全2a

指標名：患者が、苦痛が制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活をおくることができること（からだの苦痛）
データ源：患者体験調査の問44a
指標：対象：がん患者　算出法：「問44a.現在の心身の状態についてお答えください。からだの苦痛がある。」という問いに対し、4.あまりそう思わない、または5.そう思わないと回答した患者の割合

2015年
57% （補正値）

留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答1597を除外。「4.あまりそう思わない」(1308)、「5.そう思わない」(1610)と回答。

全2b

指標名：患者が、苦痛が制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活をおくることができること（痛み）
データ源：患者体験調査の問44b
指標：対象：がん患者　算出法：「問44b.現在の心身の状態についてお答えください。痛みがある。」という問いに対し、4.あまりそう思わない、または5.そう思わないと回答した患者の割合

2015年
72% （補正値）

留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答1714を除外。「4.あまりそう思わない」(960)、「5.そう思わない」(2596)と回答。

全3

指標名：患者が、苦痛が制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活をおくることができること（気持ちのつらさ）
データ源：患者体験調査の問44c
指標：対象：がん患者　算出法：「問44c.現在の心身の状態についてお答えください。気持ちがつらい。」という問いに対し、4.あまりそう思わない、または5.そう思わないと回答した患者の割合

2015年
61% （補正値）

留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答1697を除外。「4.あまりそう思わない」(1053)、「5.そう思わない」(1961)と回答。

全4

指標名：患者が、苦痛が制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活をおくることができること（自分らしい生活）
データ源：患者体験調査の問45
指標：対象：がん患者　算出法：「問45.現在自分らしい日常生活を送れていると感じていますか？」という問いに対し、1.そう思う、または2.ややそう思うと回答した患者の割合

2015年
78% （補正値）

留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答1636を除外。「1.そう思う」(2519)、「2. ややそう思う」(1425)と回答。

全5a

指標名：患者が、苦痛が制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活をおくることができること（治療の見通し）
データ源：患者体験調査の問18
指標：対象：がん患者　算出法：「問18.これまで治療を受ける中で、医療スタッフから治療スケジュールの見通しに関する情報は得られましたか？」という問いに対し、1.十分得られた、または2.ある程度得られたと回答した患者の割合

2015年
89% （補正値）

留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答262を除外。「1. 十分得られた」(3479)、「2. ある程度得られた」(2314)と回答。

全5b

指標名：患者が、苦痛が制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活をおくることができること（生活の見通し）
データ源：患者体験調査の問19
指標：対象：がん患者　算出法：「問19.これまでで入院治療を受けた時、医療スタッフから退院後の生活の見通しに関する情報は得られましたか？」という問いに対し、1.十分得られた、または2.ある程度得られたと回答した患者の割合

2015年
79% （補正値）

留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答210を除外。「1. 十分得られた」(2526)、「2. ある程度得られた」(2633)と回答。

全7

指標名: 患者が個々のニーズに配慮され、尊厳が保たれ、切れ目なく十分な治療・支援を受けていると納得できること（尊重）

データ源: 患者体験調査の問36

指標: 対象: がん患者

算出法: 「問36. あなたが医療機関で診断や治療を受ける中で、患者として尊重されたと思いますか？」という問いに対し、1.そう思う、または2.ややそう思うと回答した患者の割合

2015年
81% (補正値)

留意点: がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答1631を除外。「1. そう思う」(2836)、「2. ややそう思う」(1255)と回答。

全8

指標名: 患者が個々のニーズに配慮され、尊厳が保たれ、切れ目なく十分な治療・支援を受けていると納得できること（切れ目のない治療）

データ源: 患者体験調査の問14

指標: 対象: がん患者

算出法: 「問14. 病院から診療所・在宅医療（看護も含む）へ移った際、病院での診療方針が診療所・訪問看護ステーションへ円滑に引き継がれたと思いましたか？」という問いに対し、1.そう思う、または2.ややそう思うと回答した患者の割合

2015年
73% (補正値)

留意点: がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答(464)、「6. 退院後、診療所・在宅医療は利用していない」と回答した2752名を除外。「1. そう思う」(1969)、「2. ややそう思う」(580)と回答。

全9a

指標名: 患者が、苦痛が制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活をおくることができること（納得できる治療）

データ源: 患者体験調査の問42

指標: 対象: がん患者

算出法: 「問42. あなたはこれまで受けた治療に納得していますか？」という問いに対し、1.納得している、または2.やや納得していると回答した患者の割合

2015年
88% (補正値)

留意点: がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答1601を除外。「1.納得している」(3381)、「2.やや納得している」(1159)と回答。

全9b

指標名: 患者が、苦痛が制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活をおくることができること（納得できる支援）

データ源: 患者体験調査の問43

指標: 対象: がん患者

算出法: 「問43. あなたはこれまで受けた支援（医療機関、行政、職場、家族、友人などによる）に納得していますか？」という問いに対し、1.納得している、または2.やや納得していると回答した患者の割合

2015年
80% (補正値)

留意点: がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答1632を除外。「1.納得している」(2792)、「2.やや納得している」(1313)と回答。

要素3) 適切な情報提供・相談支援

全12

指標名: 正確で、患者のつらさに配慮した生き方を選べるような情報提供がきちんと提供されること

データ源: 患者体験調査の問35

指標: 対象: がん患者

算出法: 「問35. あなたは、自分が思うような日常生活を送るのに必要な情報を得られていると思いますか？」という問いに対し、1.そう思う、または2.ややそう思うと回答した患者の割合

2015年
72% (補正値)

留意点: がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答1671を除外。「1. そう思う」(2025)、「2. ややそう思う」(1568)と回答。

全13

指標名: 相談できる環境があると感じること

データ源: 患者体験調査の問23

指標: 対象: がん患者

算出法: 「問23. がんと診断されたとき、病気のことや療養生活に関する様々な疑問について相談できる場がありましたか？」という問いに対し、1.あった、と回答した患者の割合

2015年
67% (補正値)

留意点: がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答186を除外。「9. 相談を必要としなかった」、と回答した1666名を除外。「1. あった」の回答は(3273)。

3. がんになっても安心して暮らせる社会の構築

これまで基本法に基づき、がんの予防、早期発見、がん医療の均てん化、研究の推進等を基本的施策として取り組んできたが、がん患者とその家族の精神心理的・社会的苦痛を和らげるため、新たに、がん患者とその家族を社会全体で支える取組を実施することにより、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」を実現することを目標とする。

要素4) 経済的困窮への対応

全14a

指標名: 経済的な理由で治療をあきらめる人がいないこと（治療の変更・断念）

データ源: 患者体験調査の問20

指標: 対象: がん患者

算出法: 「問20. 治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したことがありますか？」という問いに対し、1.ある、と回答した患者の割合

2015年
2.7% (補正値)

留意点: がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答123を除外。(175)が「1.ある」と回答。
この設問では公的医療保険内・外は問わない。問21「治療費用負担の問題が無ければ受けたであろう治療は以下のどれでしょうか？」の設問を加味した結果は分野別指標

全14b

指標名: 経済的な理由で治療をあきらめる人がいないこと（交通費の負担）

データ源: 患者体験調査の問22

指標: 対象: がん患者

算出法: 「問22. がんの最初の治療（手術、化学療法、放射線療法など、経過観察も含む）のための通院にかかった交通費は、1回、往復でおおよそどのくらいの費用ですか？」において最も多かった回答。

2015年
1円～2000円 56% (補正値)

留意点: がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。最初の治療を複数の病院で受けられた場合、最も遠方の病院に通院された際の往復の交通費に関する問い。自動車やバイクを利用された場合は駐車代を含めた額を回答。選択肢は1. 0円（徒歩や自転車などのため、交通費はかかっていない）、2. 1円以上～2000円未満、3. 2000円以上～5000円未満、4.5000円以上～1万円未満、5. 1万円以上～2万円未満、6. 2万円以上、9.わからない。
がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。
回答6729中、無回答224を除外。(3608)が「2. 1円以上～2000円未満」と回答。

全7

- 指標名：患者が個々のニーズに配慮され、尊厳が保たれ、切れ目なく十分な治療・支援を受けていると納得できること（尊重）
- データ源：患者体験調査の問36
- 指標：
  - 対象：がん患者
  - 算出法：「問36．あなたが医療機関で診断や治療を受ける中で、患者として尊重されたと思いますか？」という問いに対し、1.そう思う、または2.ややそう思うと回答した患者の割合
- 2015年：**81%**（補正値）
- 留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。回答6729中、無回答1631を除外。「1.そう思う」(2836)、「2. ややそう思う」(1255)と回答。

全8

- 指標名：患者が個々のニーズに配慮され、尊厳が保たれ、切れ目なく十分な治療・支援を受けていると納得できること（切れ目のない治療）
- データ源：患者体験調査の問14
- 指標：
  - 対象：がん患者
  - 算出法：「問14．病院から診療所・在宅医療（看護も含む）へ移った際、病院での診療方針が診療所・訪問看護ステーションへ円滑に引き継がれたと思いましたか？」という問いに対し、1.そう思う、または2.ややそう思うと回答した患者の割合
- 2015年：**73%**（補正値）
- 留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。回答6729中、無回答(464)、「6. 退院後、診療所・在宅医療は利用していない」と回答した2752名を除外。「1. そう思う」(1969)、「2. ややそう思う」(580)と回答。

全9a

- 指標名：患者が、苦痛が制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活をおくることができること（納得できる治療）
- データ源：患者体験調査の問42
- 指標：
  - 対象：がん患者
  - 算出法：「問42．あなたはこれまで受けた治療に納得していますか？」という問いに対し、1.納得している、または2.やや納得していると回答した患者の割合
- 2015年：**88%**（補正値）
- 留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。回答6729中、無回答1601を除外。「1.納得している」(3381)、「2.やや納得している」(1159)と回答。

全9b

- 指標名：患者が、苦痛が制御された状態で、見通しをもって自分らしく日常生活をおくることができること（納得できる支援）
- データ源：患者体験調査の問43
- 指標：
  - 対象：がん患者
  - 算出法：「問43．あなたはこれまで受けた支援（医療機関、行政、職場、家族、友人などによる）に納得していますか？」という問いに対し、1.納得している、または2.やや納得していると回答した患者の割合
- 2015年：**80%**（補正値）
- 留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。回答6729中、無回答1632を除外。「1.納得している」(2792)、「2.やや納得している」(1313)と回答。

要素3） 適切な情報提供・相談支援

全12

- 指標名：正確で、患者のつらさに配慮した生き方を選べるような情報提供がきちんと提供されること
- データ源：患者体験調査の問35
- 指標：
  - 対象：がん患者
  - 算出法：「問35．あなたは、自分が思うような日常生活を送るのに必要な情報を得られていると思いますか？」という問いに対し、1.そう思う、または2.ややそう思うと回答した患者の割合
- 2015年：**72%**（補正値）
- 留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。回答6729中、無回答1671を除外。「1. そう思う」(2025)、「2. ややそう思う」(1568)と回答。

全13

- 指標名：相談できる環境があると感じること
- データ源：患者体験調査の問23
- 指標：
  - 対象：がん患者
  - 算出法：「問23．がんと診断されたとき、病気のことや療養生活に関する様々な疑問について相談できる場がありましたか？」という問いに対し、1.あった、と回答した患者の割合
- 2015年：**67%**（補正値）
- 留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。回答6729中、無回答186を除外。「9．相談を必要としなかった」、と回答した1666名を除外。「1. あった」の回答は(3273)。

3. がんになっても安心して暮らせる社会の構築

これまで基本法に基づき、がんの予防、早期発見、がん医療の均てん化、研究の推進等を基本的施策として取り組んできたが、がん患者とその家族の精神心理的・社会的苦痛を和らげるため、新たに、がん患者とその家族を社会全体で支える取組を実施することにより、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」を実現することを目標とする。

要素4） 経済的困窮への対応

全14a

- 指標名：経済的な理由で治療をあきらめる人がいないこと（治療の変更・断念）
- データ源：患者体験調査の問20
- 指標：
  - 対象：がん患者
  - 算出法：「問20．治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したことがありますか？」という問いに対し、1.ある、と回答した患者の割合
- 2015年：**2.7%**（補正値）
- 留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。回答6729中、無回答123を除外。(175)が「1.ある」と回答。この設問では公的医療保険内・外は問わない。問21「治療費用負担の問題が無ければ受けたであろう治療は以下のどれでしょうか？」の設問を加味した結果は分野別指標

全14b

- 指標名：経済的な理由で治療をあきらめる人がいないこと（交通費の負担）
- データ源：患者体験調査の問22
- 指標：
  - 対象：がん患者
  - 算出法：「問22．がんの最初の治療（手術、化学療法、放射線療法など、経過観察も含む）のための通院にかかった交通費は、1回、往復でおおよそどのくらいの費用ですか？」において最も多かった回答。
- 2015年：**1円～2000円 56%**（補正値）
- 留意点：がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。最初の治療を複数の病院で受けられた場合、最も遠方の病院に通院された際の往復の交通費に関する問い。自動車やバイクを利用された場合は駐車代を含めた額を回答。選択肢は1．0円（徒歩や自転車などのため、交通費はかかっていない）、2.1円以上～2000円未満、3. 2000円以上～5000円未満、4.5000円以上～1万円未満、5.1万円以上～2万円未満、6. 2万円以上、9.わからない。がんと診断されたことはないと回答した患者、および無回答患者は対象より除外。回答6729中、無回答224を除外。(3608)が「2. 1円以上～2000円未満」と回答。

分野別施策と個別目標

1. がん医療

（1） 放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とチーム医療の推進

A. チーム医療とがん医療全般に関すること

拠点病院を中心に、医師による十分な説明と患者やその家族の理解の下、インフォームド・コンセントが行われる体制を整備し、患者の治療法等を選択する権利や受療の自由意思を最大限に尊重するがん医療を目指すとともに、治療中でも、冊子や視覚教材などの分かりやすい教材を活用し、患者が自主的に治療内容などを確認できる環境を整備する。

A15a

指標名：拠点病院における5大がん（およびほかのがん）患者の5年生存率

データ源：院内がん登録

指標：対象：拠点病院における5大がん（および他のがん）患者　算出法：5年生存率

2007年院内がん登録5年粗生存率	
乳がん 90%	肺がん 36%
大腸がん 69%	胃がん 63%
肝臓がん 33%	他のがん 62%

留意点：標記は相対生存率ではなく、粗生存率による暫定値。
2007年院内がん登録5年粗生存率。乳(乳がん)、大腸(大腸がん)、肝(肝臓がん)、肺(肺がん)、胃(胃がん)、他(その他のがん)を示す。[]は95%信頼区間。
乳がん 89.7% [89.3, 90.1]、大腸がん 68.7% [68.2, 69.1]、肝臓がん 32.9% [32.0, 33.8]、肺がん 36.1% [35.5, 36.6]、胃がん 62.8% [62.3, 63.4]、その他のがん 62.3% [62.0, 62.6]

A18

指標名：納得のいく治療選択ができたがん患者の割合 （インフォームドコンセント）

データ源：患者体験調査

指標：対象：がん患者　算出法：「自分の治療について納得いく治療を選択することができた」と回答した患者の割合

2015年：85%（補正値）

留意点：患者体験調査において、がんと診断されたことがあると回答した患者のうち、問12「がんの診断から治療開始までの状況を総合的にふりかえって、あなた（患者本人）が納得いく治療を選択することができたと思いますか？」で「1.そう思う、または「2.ややそう思う」と回答した患者の割合を算出。
6729名の内、無回答147名を除外。「1.そう思う」(4390)、または「2. ややそう思う」(1171)と回答。

A18a

指標名：医師以外の職種がインフォームドコンセントに必ず参加する拠点病院の割合 （インフォームドコンセント）

データ源：拠点病院現況報告

指標：対象：拠点病院　算出法：医師以外の職種がインフォームドコンセントに必ず参加する施設の割合

2014年：47.2%

留意点：がん患者に対するインフォームドコンセントの際、医師以外の職種が必ず参加することが原則となっている、に対し、「はい」と回答した施設(294施設/409施設)
その原則は、規定、あるいはマニュアルなどで明文化されている、に対し、「はい」と回答した施設(195施設/409施設)
いずれも「はい」と回答した施設(193施設/409施設)47.2%を算出。

A18b

指標名：医療従事者にがん告知や余命告知のための研修を実施している（マニュアル等がある）拠点病院の割合

データ源：拠点病院現況報告

指標：対象：拠点病院　算出法：がん告知や余命告知等を行う際のコミュニケーション研修やマニュアル等があった拠点病院の割合

2014年：56.0%

留意点：医療従事者に対してがん告知や余命告知等を行う際のコミュニケーション研修を1年に最低1回でも実施している、に対し、「はい」と回答した施設(151施設/409施設)。
がん告知や余命告知等を行う際のコミュニケーションに関するマニュアルがある、に対し、「はい」と回答した施設は(198施設/409施設)。
いずれも「はい」と回答した施設(120施設/490施設)だったが、ここでは、いずれかに対し、「はい」と回答した施設(229施設/409施設)56.0%を算出している。

A18d

指標名：若年がん患者の妊孕性温存処置ができる（または他施設を紹介している）拠点病院の割合

データ源：拠点病院現況報告

指標：対象：全国がん診療病院（外科（乳がん等）、血液腫瘍、泌尿器、婦人科、小児科等）　算出法：妊孕性温存のための具体的な処置ができる、あるいは、上記方法を行えない場合、他施設を紹介している施設の割合

2014年：62.1%

留意点：62.1%とは精子保存、未受精卵凍結保存、受精卵凍結保存、卵巣組織凍結保存、放射線治療に対する卵巣移動、放射線治療に対する卵巣遮蔽、卵巣休眠、妊孕性温存治療ができる施設への紹介のいずれか1つでも実施できると回答した施設の割合が62.1%(254施設/409施設)。
がんの治療に際する妊孕性温存目的で精子保存を行った患者の数が1件以上の施設(60施設/409施設)： 14.7%
がんの治療に際して妊孕性温存が必要な患者のために未受精卵子凍結保存を行うことができると回答した施設(40施設/409施設)： 9.8%
がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子凍結保存を行った患者の数が1件以上の施設(14施設/409施設)： 3.4%
がんの治療に際して妊孕性温存が必要な患者のために受精卵(胚)凍結保存を行うことができると回答した施設(79施設/409施設)： 19.3%
がんの治療に際する妊孕性温存目的で受精卵(胚)凍結保存を行った患者の数が1件以上の施設(36施設/409施設)： 8.8%
がんの治療に際して妊孕性温存が必要な患者のために卵巣組織凍結保存を行うことができると回答した施設(31施設/409施設)： 7.6%
がんの治療に際する妊孕性温存目的で卵巣組織凍結保存を行った患者の数が1件以上の施設(4施設/409施設)： 1%
がんの治療に際して妊孕性温存が必要な患者のために放射線治療に対する卵巣移動を行うことができると回答した施設(179施設/409施設)： 43.8%
がんの治療に際する妊孕性温存目的で放射線治療に対する卵巣移動を行った患者の数が1件以上の施設(59施設/409施設)： 14.4%
がんの治療に際して妊孕性温存が必要な患者のために放射線治療に対する卵巣遮蔽を行うことができると回答した施設(151施設/409施設)： 36.9%
がんの治療に際する妊孕性温存目的で放射線治療に対する卵巣遮蔽を行った患者の数が1件以上の施設(15施設/409施設)： 3.7%
がんの治療に際して妊孕性温存が必要な患者のために薬物を用いて卵巣を休眠させる事で化学療法から卵巣を保護する治療を行うことができると回答した施設(154施設/409施設)： 37.7%
がんの治療に際する妊孕性温存目的で薬物を用いて卵巣を休眠させる事で化学療法から卵巣を保護する治療を行った患者の数が1件以上の施設(66施設/409施設)：16.1%
がんの治療に際して妊孕性温存のための処置が必要な患者のために 妊孕性温存治療ができる他の施設を紹介していると回答した施設(188施設/409施設)： 46.0%
がんの治療に際する妊孕性温存のための処置が必要な患者のために 妊孕性温存治療ができる他の施設へ紹介した患者の数が1件以上の施設(84施設/409施設)： 20.5%
上記いずれか1つでも「できる」と回答した施設(254施設/409施設)、上記いずれか1件でも実施したと回答した施設(159施設/409施設)

A18e

指標名：妊孕性温存に関する情報が提供された40歳未満のがん患者の割合

データ源：患者体験調査

指標：対象：40歳未満でがんの治療を受けた患者　算出法：妊孕性温存のための具体的な説明を受けたと答えた患者の割合

2015年：25%（補正値）

留意点：患者体験調査において、がん診断時に40歳未満で、問15で「最初のがんの治療が開始される前に、その治療による不妊への影響について、医師から説明を受けましたか？」という問いに対し回答した患者735名のうち、問16が無回答の5名を除外。問15で「2. 不妊への影響はない、という説明を受けた」(101名)、問16で「1. 予防・温存の具体的方法を説明された」(126名)、問16で「2. 予防・温存の具体的方法はないと言われた」(34名)のいずれかを回答した患者（総計261名）の割合を算出。粗解析値は36%であった。

患者とその家族の意向に応じて、専門的な知識を有する第三者の立場にある医師に意見を求めることができるセカンドオピニオンをいつでも適切に受けられ、患者自らが治療法を選択できる体制を整備するとともに、セカンドオピニオンの活用を促進するための患者やその家族への普及啓発を推進する。

A19

指標名：セカンドオピニオンの説明を受けたがん患者の割合 （セカンドオピニオン）

データ源：患者体験調査

指標：対象：がん患者　算出法：治療開始をする前に、医師からセカンドオピニオン"を受けられることの説明を受けた人の割合

2015年：40%（補正値）

留意点：患者体験調査の問11、「がんの治療が始まる前に、ほかの医師の意見を聞くセカンドオピニオンをうけられることについて担当医から説明はありましたか？」で、「1.説明があった」と回答した患者の割合を算出。6729名の内、無回答214名と、「9.からない/覚えていない」と解答した1183名を除外。(2255)が「1.説明があった」と回答。